

# 端末利用者が施す措置の一覧表

最終更新日:2024年10月30日

## ○端末や配信の選択

番号	項目	ANET対応状況
1	気象庁が緊急地震速報(予報)・リアルタイム震度電文を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間がトータル1秒以内に行える配信・許可事業者の利用を推奨	①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) ②FTE-ANT ③EQMessenger 緊急地震速報(予報)を受信してから報知を開始するまでに要する時間は、1秒以内である。
2	気象庁から端末まで、配信を途切れさせないような対策を取っている配信・許可事業者の利用を推奨	受信サーバ・各種配信サーバ・クラウドサーバは2台1組の構成で、各サーバはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。
3	時刻の誤差が常に1秒以内となるよう時刻合わせを行っている配信・許可事業者の利用を推奨	①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) ②EQMessenger ③FTE-ANT NTPサーバによる時刻校正を行っている。
4	配信・許可事業者によるサポートが充実しているものを推奨	スタンダードプラン:24時間電話受付。 シンプルプラン:営業日の9時~18時のみ電話受付。
5	震度の予想手法として従来法とPLUM法の両方の機能を有することを推奨	①受信・通報システム(タイプA、クラウド) タイプAは個別カスタマイズ、クラウドは標準機能で従来法とPLUM法の両方の機能を有する。

## ○端末や回線等に対して施す措置

番号	項目	ANET対応状況
1	耐震固定等地震の揺れへの対策をとることを推奨	①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) ②EQMessenger 耐震固定具等を使用する事を推奨している。  ③FTE-ANT 壁掛け用の専用金具で固定する。
2	無停電化の措置を講じることを推奨	UPSを使用する事を推奨している。
3	端末の冗長化を推奨	受信端末を冗長化することを推奨している。
4	常時接続できる回線が必須	基本的に常時接続可能な回線を必須とする。 また、IP-VPN、専用線等を使用する事を推奨している。
5	専用線などの信頼性の高い回線の使用を推奨	基本的にIP-VPN、専用線等を使用する事を推奨している。
6	サーバー端末間の物理回線の冗長化を推奨	配信サーバ～受信端末間の回線を物理的に冗長化する事を推奨している。

## ○予想した猶予秒時間、到達予想時刻による制御、放送及び報知

番号	項目	ANET対応状況
1	予想した猶予時間がない場合でも制御、放送及び報知を行うことを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
2	猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送、報知を継続させることを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
3	高層ビル等において長周期地震動階級等の予報やこれを用いた構造物の詳細な揺れの予報に基づく場合、到達予想時刻後もしばらくの間、制御、放送及び報知を継続させることを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。

## ○予想した震度、長周期地震動階級等及び構造物の詳細な揺れの大きさによる制御、放送及び報知

番号	項目	ANET対応状況
1	予想した震度等が設定値(*)を超えた時に制御、放送及び報知を行うことを推奨。 (*)制御先の耐震性能等や施設の安全性、端末利用者の必要性に応じて設定した値。	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
2	予想した震度や長周期地震動階級等による放送、報知の場合、長周期地震動階級・周期別階級で階級3以上に相当する大きな揺れが予想された場合に放送、報知を行うことを推奨。	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
3	(オプション)構造物の詳細な揺れの予報を行う場合は、予報が地震動の予報でないことについて予め明示している前提で、階層等を特定して強い揺れが来ることを放送、報知	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。

## ○精度情報等による制御、放送及び報知

番号	項目	ANET対応状況
1	複数観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)による制御、放送及び報知、または緊急地震速報(警報)に整合する制御、放送及び報知を行うことを推奨	<p>スタンダードプラン 緊急地震速配信サービス ①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) 基本的に複数観測点のデータを使用する。</p> <p>スタンダードプラン ANETアラート、シンプルプラン: ②EQMessenger ③FTE-ANT 基本的に複数観測点のデータを使用する。</p>
2	(オプション)100ガル超え緊急地震速報や1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)を、迅速な制御や制御の準備、または放送設備の起動等の準備に利用	<p>スタンダードプラン 緊急地震速配信サービス ①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) 100ガル超えの緊急地震速報および、1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)を使用するかは選択が可能である。</p> <p>スタンダードプラン ANETアラート、シンプルプラン: ②EQMessenger ③FTE-ANT 100ガル超えの緊急地震速報および深発地震の緊急地震速報は配信されない。 1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)を使うか選択が可能である。</p>

## ○深発地震についての緊急地震速報(業)による制御、放送及び報知

番号	項目	ANET対応状況
1	<p>震度の予想手法がPLUM法に基づく場合は制御、放送及び報知を行うことを推奨。</p> <p>一方、震度の予想手法が従来法に基づく場合は、制御、放送及び報知を行わないことを推奨。</p>	<p>スタンダードプラン 緊急地震速配信サービス</p> <p>①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド)</p> <p>②EQMessenger</p> <p>仮定震源、深発地震を使うか選択が可能である。</p> <p>スタンダードプラン ANETアラート、シンプルプラン配信サービス:</p> <p>②EQMessenger</p> <p>③FTE-ANT</p> <p>基本的に仮定震源を使用し、深発地震の緊急地震速報は配信されないが、要望により深発地震を使うか選択が可能である。</p>
2	<p>(オプション)震度の予想手法が従来法に基づく場合でも、経験的に大きな揺れが観測される東日本の太平洋側地域等で制御、放送及び報知に利用</p>	<p>基本的に全国の緊急地震速報を使用している。</p>
3	<p>緊急地震速報(警報)に整合する放送、報知を行うことを推奨</p>	<p>報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。</p>
4	<p>長周期地震動階級等の予報やこれを用いた構造物の詳細な揺れの予報に基づく場合、深発地震では制御、放送及び報知を行わないことを推奨</p>	<p>報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。</p>

○緊急地震速報(業)で制御、放送及び報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)による制御、放送及び報知

番号	項目	ANET対応状況
1	放送・報知の内容は変更しないことを推奨	端末は設定震度もしくは利用者個別の判断基準を超えた場合に動作し、一度動作するとその後受信した緊急地震速報(予報)によって自動で動作を解除することはない。
2	予想した震度や長周期地震動階級等、構造物の詳細な揺れの大きさによって制御、放送及び報知を変えており、制御、放送の変更が可能な場合、かつ、新たに予想した値が大きくなる場合には、新たに予想した値に応じた内容で制御、放送及び報知することを推奨。一方、新たに予想した値が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要	端末は設定震度もしくは利用者個別の判断基準を超えた場合に動作し、一度動作するとその後受信した緊急地震速報(予報)によって自動で動作を解除することはない。但し表示は、新たに予想した大きい値に更新される。
3	震度等の違いによって制御、放送及び報知の内容を変えていない場合や、制御、放送及び報知の開始後に内容の変更が許されない場合や利用者が対応できない場合は、制御、放送及び報知の開始後の緊急地震速報(業)は用いないことを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
4	長周期地震動階級等の予報やこれを用いた構造物の詳細な揺れの予報に基づく場合、高層ビル等においては、到達予想時刻後もしばらくの間は、揺れへの警戒を継続してもらうよう放送、報知を継続することを推奨。またしばらく制御を継続する必要があることを考慮して、あらかじめ制御時間等を検討しておく必要がある。	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。

## ○放送や報知による伝え方

番号	項目	ANET対応状況
1	緊急地震速報(警報)に整合している場合で放送、報知させる場合、NHKチャイム音を推奨。そうでない場合はNHKチャイム音以外の音源を推奨	主にNHKチャイム音を利用している。但し、利用者のニーズによりREIC音も利用している。放送内容は端末利用者のニーズに合わせて設定している。
2	(オプション)騒音等で放送が聞き取りにくい条件下において、認識しやすい報知音や文言で放送	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
3	(オプション)放送を聞く在館者等が対応可能なら、予想した震度等によって報知音や放送文言を変えて放送	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
4	放送した後は、実際の震度等を放送することを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
5	予想した震度や長周期地震動階級等、構造物の詳細な揺れの大きさ、猶予時間は誤差が含まれるため具体は報知せず、素早く身を守ることを促す報知を推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
6	予想誤差について理解していれば、具体的な予想震度や長周期地震動階級等、構造物の詳細な揺れの大きさ、猶予時間を報知する選択もあるが、震度の予想がPLUM法に基づく場合は具体的な猶予時間は報知せず、「まもなく到達」等の表現を用いることを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
7	耳の不自由な方へも伝わるのが重要であるため、緊急地震速報(警報)に整合している場合は、放送や報知に合わせて、警告灯やフラッシュライト等を活用することを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。

## ○キャンセル報の扱い

番号	項目	ANET対応状況
1	制御に利用した緊急地震速報(業)に対してのキャンセル報が提供された場合は、制御の解除やその判断に利用することを推奨	①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) ②EQMessenger ③FTE-ANT キャンセル報を受信した場合、対応する電文がキャンセルされた事を報知する。
2	放送、報知に利用した緊急地震速報(業)に対してのキャンセル報が提供された場合は、キャンセルされた旨の放送、報知を行うことを推奨	報知機能や外部出力機能は端末利用者のニーズに合わせて個別に設定している。
3	制御または放送の準備に利用した緊急地震速報(業)に対してのキャンセル報が提供された場合は、準備を解除することを推奨	①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) ②EQMessenger ③FTE-ANT キャンセル報を受信した場合、対応する電文がキャンセルされた事を報知する。
4	制御または制御の準備、放送または放送の準備、報知に利用しなかった緊急地震速報(業)に対してのキャンセル報は利用しない	①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド) ②EQMessenger ③FTE-ANT 放送の準備、報知に利用しなかったキャンセル報を受信した場合、対応する電文がキャンセルされた事を報知しない。



## ○その他

番号	項目	ANET対応状況
1	<p>テスト報を受けて行う試験の実施を推奨            なお、普段はテスト報を受けても動作しない設定とすることを推奨</p>	<p>スタンダードプラン ANETアラート：            テストフラグがついた電文をテスト報として送信可能。訓練報と同じ動作をする。            但し、端末には訓練支援機能がある。</p> <p>スタンダードプラン 緊急地震速報、シンプルプラン：            テスト報には対応しておらず、送信できない。            但し、端末には訓練支援機能がある。</p>
2	<p>端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練の実施を推奨            なお、普段は訓練報を受けても動作しない設定とすることを推奨</p>	<p>①受信・通報システム(タイプA、B、クラウド)            ②EQMessenger            ③FTE-ANT            気象庁から配信される訓練報で動作は行わない。            但し、端末には訓練支援機能がある。</p>
3	<p>配信・許可事業者の利用方法等について連絡することを推奨</p>	<p>スタンダードプラン：24時間電話受付。            シンプルプラン：営業日の9時～18時のみ電話受付。</p>